



学校だより

学校教育目標「豊かな心を持ち
高め合うなかま」

平成26年9月24日 第6号
伊豆市立土肥小学校
伊豆市土肥638 Ⅸ 98-0056

全国学力・学習状況調査の結果

4月22日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が8月25日に公表されました。
本校の6年生の結果及び分析内容について保護者の皆様にお知らせします。



静岡県及び全国の平均正答率との比較

	静岡県	全国	土肥小学校
国語A	72.8%	72.9%	県・全国平均をほんの少し下回っています。
国語B	58.4%	55.5%	県・全国平均を大きく上回っています。
算数A	79.4%	78.1%	県・全国平均を上回っています。
算数B	58.5%	58.2%	県・全国平均を上回っています。

各教科ごとの分析

国語A	『情景描写の効果を捉える』『複数の事柄を並列の関係で書く』『仮定の表現として、適切なものを捉える』といった「書く能力」に関する問題や、『新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える』『物語の登場人物の相互関係を捉える』といった「読む能力」に関する問題が県や全国の平均を下回っています。そこで、多くの本を読むことばかりでなく、新聞やリーフレット、ちらしなど様々な様式を持った印刷物にも親しんでいくとともに、それぞれの様式の特徴を踏まえ、「書くこと」で身に付けた力を「読むこと」等でも活用するようにしていきます。
国語B	『目的に応じて、話合いの観点を整理する』『質問の意図を捉える』『立場を明確にして、質問や意見を述べる』といった「話す・聞く能力」に関する問題が県や全国の平均を上回っています。文章の解釈について、友達と交流し、一人一人の感じ方に違いがあることを理解し、互いに考えたことがどのように共通したり相違したりしているかなどを明らかにしながら、自分の考えを広げ、深めていくことによって一層の向上が期待できます。
算数A	『円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる』『作図に用いられている図形の約束や性質を理解している』『立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している』といった「図形領域」の問題が県や全国の平均を上回っています。しかし、『繰り上がりのある加法の計算をすることができる』『小数第1位までの減法の計算をすることができる』といった「数と計算領域」の問題が県や全国の平均を下回っています。そこで、学習したことを使って身の回りのことを考えることを通して日常的に算数に触れる機会を増やしたり、ドリル学習に取り組み、多くの問題に触れたりするようにしていきます。
算数B	『全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる』『示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる』といった「量と測定領域」の問題が県や全国の平均を下回っていますが、それ以外の問題では、県や全国の平均を上回っています。提示された情報を整理し、筋道を立てて考え、求め方を言葉や式を使って説明できるようにしていきます。

児童質問紙より

昨年度は、『平日にテレビを4時間以上見ている』という子が全国平均の21%に対して、本校は44.4%でした。しかし、今年度は全国平均19.8%に対して、本校は15.8%と低くなりました。また、テレビゲーム等をしている時間も全国平均より短く、家庭での生活習慣がきちんと身に付いているようです。しかし、『「総合的な学習の時間」の学習が普段の生活や社会に出たときに役立つと思いますか』や『「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』といった質問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合が全国平均よりも低くなっています。そこで、「総合的な学習の時間」における探究活動(課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導)に重点的に取り組んでいきます。

